

大学生におけるソーシャル・サポートと 職業キャリア成熟に関する研究

スポーツ経営組織学ゼミナール 1313006 石川祐輝

1. 研究動機・研究目的

学生から社会人への移行時期にある大学生にとって、卒業後の職業を選択することは、主要な発達の課題の一つである (Super,1957)。しかし、大学生の現状を見ると、これまでの中学校から高等学校、さらに大学に至る進路選択の過程において、職業や生き方の問題との関わりが必ずしも十分でない環境で育ったこともあり、職業や生き方の問題に対峙した時に支障をきたす者も少なくない(吉谷,1990)。また、厚生労働省の調べによると、大卒正社員の入社後3年以内の離職率は平成15年3月卒から平成25年3月卒までで、平成21年3月卒を除き30%台と、低いとは言えない水準である。これらの主要統計が示すよう、現在、少なからぬ大学生が仕事世界への移行やその後の適応に問題を抱えているのである。キャリア選択にまつわる諸問題は、個人の経済的・心理的自立の機会を損なうだけでなく、貴重な人材育成に歯止めをかけ、社会にとって大きな損失を生み出すことになる。

一方で、大学卒業者におけるキャリア選択問題の背景には、大学生自身にその問題が起因するという見方も少なくない。職業意識の未成熟や主体性の欠如など大学生の心理的側面を問題視する立場である。これらの問題解決への取り組みでは、キャリア意識の形成や職業世界への方向づけなど、内的要因に対してアプローチすることになる。そのアプローチの一つとして、ソーシャル・サポートが挙げられている。先行研究では就職活動によって伴うストレスに対して、ソーシャル・サポートが有効であることが明らかにされている。しかし、大学生におけるソーシャル・サポートと職業キャリア成熟との関連についての研究は行われていない。そこで本研究ではこれらの関連を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【調査対象】 大学1年生から大学4年生 n=474

【調査期間】 2016年10月1日～10月14日

【調査方法】 質問紙調査法、Web調査法

- ・ フェイスシート(性別、住居形態など)
- ・ 日本語版ソーシャル・サポート尺度
- ・ 職業キャリア・レディネス尺度

3. 主な結果と考察

日本語版ソーシャル・サポート尺度と職業キャリア・レディネス尺度との相関関係において低い正の相関が認められた。 $(r=.256, p<.001)$

日本語版ソーシャル・サポート尺度の各3因子（親からのサポート、友達からのサポート、大切な人からのサポート）と職業キャリア・レディネス尺度の各3因子（職業キャリア関心性、職業キャリア自律性、職業キャリア計画性）との相関関係においては友達からのサポートと職業キャリア自律性との間に低い正の相関が認められた。 $(r=.202, p<.001)$

上記の結果以外にそれぞれの尺度の因子同士に相関関係はほとんど認められなかった。その理由として大学卒業者におけるキャリア選択問題の背景には、経済状況や産業構造など個人の力では解決しえない外的要因が強く作用していることが考えられる。また、今回焦点を当てたソーシャル・サポート以外に、大学の就職課の充実や、実際に就職活動を経験した先輩などの情報を重視しているという見解も考えられる。

4. 結論

本研究の結果は以下の3点に集約することができる。

- (1)職業キャリア成熟に影響する要因の一つとしてソーシャル・サポートが挙げられることが明らかとなりソーシャル・サポートの重要性が再認識された。
- (2)職業キャリア成熟は実習経験がある人の方が高いため、積極的に自分のキャリアに関係する経験などは積んでいた方が良いと考えられる。
- (3)現在受けているソーシャル・サポートと自身のキャリア展望を結びつけて考えることの必要性が示唆された。

つまり、職業キャリア成熟にソーシャル・サポートだけが影響を与えているわけではないが、少なからず影響があることが本研究で明らかとなった。いま一度、各々が受けているサポートがどのようなもので、自身のキャリアを考える際に何か関係はしていないかと考えることで、キャリア成熟は深まるのではないかと考えられる。さらに、大学生のうちに、実習経験など、経験することでキャリア成熟を深めることができるとも考えられる。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文を執筆するにあたって、ご丁寧にご指導してくださった水野基樹先生には2年間大変お世話になりました。また、水野ゼミの院生の方々には論文の書き方から分析方法など、一から教えていただき、ありがとうございました。そしてアンケート調査にご協力いただいた皆様にも感謝しています。これから、順天堂大学で培ったものを活かし、社会人になっても精進していきたいと思えます。